

第 8 回

寿地区 ウォーキング大会

～ウォーキング大会に参加して～



5月17日、第8回寿地区春のウォーキング大会に参加しました。

当日は天候にも恵まれ、5月としては異例の暑さのなかで約7キロのコースをおよそ2時間かけて歩きました。

去年も家族で参加させていただいたのですが、今年は147人と大勢の方が参加され、とくに家族連れの方が多いと感じました。2回目なので余裕だと思いきや、半分ほど歩いたところで、足が痛くなり始め、段々口数も少なくなり、周りの景色を楽しむ余裕すら無くなってしまいました。そんな私を尻目に子ども達はどうと、友達とお喋りしながら楽しそうに歩いていました。

普段7キロも歩くことは無いので、ゴールした時はやりきったという達成感がありました。帰りに買ったアイスが格別に美味しかったです。ぜひ、秋のウォーキング大会に参加してみたいかがでしょうか。

【館報編集委員 野村 真幸】



世帯数 6,222戸
人口 13,391人
(令和8.7.1現在)



もうすぐ始まる！



まだまだ歩くよ～



開会式



事務局

よく歩いたね！



歩いている途中で
北アルプスも見えました！

わがまち 《赤木町会》

「赤木のルーツ」

長野県

松本市に
ある地名

「赤木」

は、この

地を開拓

した信濃

赤木氏の

発祥の地

に由来し

ています。

また、全国の「赤木」姓のルーツもこの地にあるとされています。

平安時代から鎌倉時代にかけての歴史的経緯は以下のとおりです。

● 白河氏の誕生

平家の一門である忠兼が

信濃国に入国し、「白川郷

(現・松本市寿豊丘)」に移

住して白河氏を名乗ったの

が始まりです。

● 赤木氏の誕生

白河親忠が、隣接する「赤

木郷 (現・松本市寿小赤大

字赤木)」に分家したこと

で「赤木氏」を名乗るよう

になりました。



● 全国への展開

鎌倉時代 (1221 年頃)

に、赤木親忠の子・忠長が

戦功により備中国 (現在の

岡山県高梁市付近) の地頭

に任命されて移住したこと

で、岡山県を中心とする山

陽地方にも「赤木」姓が広

がりました。

現在は岡山市から広島県

福山市の間に多く、とくに

総社市や久米南町に集中し

ています。なお、岡山県で

は読み方が「あかき」と「あ

かき」に分かれています。

一方、九州にも比較的「赤

木」が多く、こちらは「あかき

」と濁ります。とくに宮崎県

に多く、江戸時代、日向国

児湯郡川北 (現在の宮崎県

児湯郡都農町川北) の豊後

街道沿いには「万屋」と号し

た豪商の赤木家がありまし

た。山林業で財をなし、廻

船業も営んでいました。

江戸時代後期には高鍋藩

主の参勤交代の際に本陣も

つとめており、同家の住宅

は国の重要文化財に指定さ

れています。

【館報編集委員 野村 真幸】

寿地区福祉の文化祭 「この街に生きて」

6 月 17 日、寿体育館にお

いて「寿地区福祉の文化祭」

が開催されました。

この文化祭は、誰もが暮

らしやすい街づくりを目指

し、高齢者や障がいのある

方、子どもたちや地域の方

が交流を深める催しで、今

年で 15 回目を迎えます。福

祉をテーマとした文化祭を

継続して開催しているのは、

松本市内 35 地区の中でも寿

地区だけです。

当日は晴天に恵まれ、福

祉関係者、地域の方、児童・

生徒、学生など 350 人を超

える皆さんが参加しました。



会場には多くの笑顔があふれ、世代や立場を超えた交流の輪が広がりました。

ステージでは、寿小学校

3 年生による元気いっぱい

の身体表現が披露され、会

場から大きな拍手が送られ

ました。また、参加者全員

で手話ソング「ビリーブ」手

のひらを太陽に」を歌い、

最後には「この街に生きて」

の合唱が行われ、一体感に

包まれました。

交流ブースでは、ハンドマッ

サージや折り鶴づくり、すき

紙づくり、スタンプラリーな

どが行われ、子どもから高齢

者まで多くの参加者が楽し

みながら交流を深めました。

実行委員長の百瀬康雄さんは、「この文化祭をきっかけに、お互いを知り、交流を重ねることで、支え合い、助け合う『お互いさま』の心を地域全体で育んでほしい」と話していました。

地域のつながりや思いやりの大切さを改めて感じる一日となりました。

【館報編集委員 太田 知孝】

